

二〇二五年度 入試問題体験会

国語

【注 意】

- ・ 試験時間は三〇分です。
- ・ 問題は一ページから四ページまでです。
- ・ 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- ・ 字数制限のない問題について、一行分の解答らん
二行以上解答してはいけません。
- ・ 解答用紙に受験番号、氏名を記入してください。



洗足学園中学校

次の文章は、二〇二〇年、新型コロナウイルスの世界的流行が始まってから半年経ったところに書かれたものです。これを読んで後の問いに答えなさい。

5

10

15

20

25

30

35

40

45

50

55

60

95

90

85

80

75

70

65

125

120

115

110

105

100

問一

——(1)「『ポスト・ヒューマン』」とありますが、これはどういう考え方のことですか。三行以内で説明しなさい。

問二

——(2)「究極の人間中心主義」とありますが、そのように考えることができるのはなぜですか。次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 科学技術が飛躍的に発展を遂げるようになると、これまで人間がやってきたさまざまな知的活動はAIによってことごとくとって代わられると見なされるようになるから。

イ 人間によってつくり出された科学技術がその万能性を発揮し、ついに人間社会に浸透し尽くしたとすれば、それはまぎれもなく人間の万能性が証明されることになるから。

ウ 「ポスト・ヒューマン」という言葉の核心にある考え方は、「神をも恐れぬ」仕方で自然を手に入れてきた人間がもはや万能でさえなくなることと深く関係しているから。

エ 世界の中心に、神・人間・科学技術の、いずれかを置くとしても、近代Ⅱ人間中心主義の時代が終わったという時代認識を根本的に覆すことはできないと考えられるから。

問三

——(3)「近代社会が約束事として合意してきた『人間とは何か』という定義」とありますが、このことは「人間の生殖・出生」に関して言うのと、どういう考え方になりますか。九〇字以内で説明しなさい。

問四

——(4)「漠然とした不安の感情を行き渡らせてきた」とありますが、この感情の背景にあるのはどのようなことですか。次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人間の社会がより便利で快適な暮らしを夢見てきたからこそ、その代償としての内なる自然が脚光を浴びるようになってきており、私たちの根本的な考え方を揺さぶっていること。

イ 人間の身体に対する操作可能性は、自然の他者性を原理的に縮減する以前から議論されていたが、技術の飛躍とともにそのことへの関心が高まり、倫理的な葛藤が生じていること。

ウ 人間の外界にある自然だけでなく、人間の内なる自然すなわち生命の領域にまで科学技術による操作可能性が高まってきたために、これまでの社会的な常識が揺らぎつつあること。

エ 「自然の他者性」という考え方自体が、「生命の神秘」にかかわる領域の操作可能性という、人間が触れてはならない次元をすでに含んでいたことに人々があらためて気づいたこと。

問五

——(5)「こうした現実」とありますが、「こうした現実」は私たちにどういうことを示していますか。《 》の表現に合うように、空らん部に本文から二十一字で抜き出して書きなさい。

《こうした現実》は、私たちに（二十一字）を示している。《 》

問六

——(6)「あらゆるものが変化しているように見えて実は何も変わってはいません。」とありますが、そのように言えるのはなぜですか。三行以内で説明しなさい。

問七

A B C D の中に入れる語として正しいものを次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。（ただし記号はそれぞれ一回ずつ使います。）

ア そして イ つまり ウ 例えば エ しかし

問八

——ア～オのカタカナを漢字に直しなさい。

問九

本文の内容に合うものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 新型コロナウイルスの大流行により、自然を征服したと言われる科学技術もまだ人類の知りえない領域があることに気づかされ、私たちは知識や技術をどう発展させるべきなのか、あらためて問われている。

イ 「ポスト・ヒューマン」なる観念が資本主義の過剰なまでの高度化の産物であるというのは事実だが、新型コロナウイルスの大流行により、こうした社会の在り方をも根本的に変革すべきことを私たちに物語っている。

ウ 新型コロナウイルスによる危機が吹き飛ばしたのは、人類の技術によって自然を改変できるという観念であり、感染症の正体を見極める努力は今後も続けなければならないことは、人類史の中ではきわめて異例の出来事である。

エ 一つの時代も技術と社会の関係においては社会が先にあり、社会が採用した技術が一般化するものだったが、新型コロナウイルスの大流行は、その逆を採用すべきだという新しい在り方を、私たちに突きつけたのである。

